

広報

やまと

7月号
2016 No.246

特集①

まほろばすももフェスタ開催

特集②

災害は忘れたところにやってくる！
“その時”に備えよう

もくじ

- 02-05 特集①：まほろばすももフェスタ開催
- 06-07 特集②：災害は忘れたところにやってくる！
“その時”に備える
- 08-09 村の話題：ゴガツセック、ほか
- 10 連載：ワンダー奄美（地域おこし協力隊通信）
- 11 連載：どうくさむんがたり（大和診療所だより）
- 12-14 お知らせ：ひらとみ祭り開催、ほか
- 15 連載：島の宝、ほか
- 16 連載：大和村産業遺産



「まほろばすももフェスタ」が6月19日、大和まほろば館周辺にて初開催されました。ミカンコミバエ問題で島外出荷が危ぶまれたものの、条件付で出荷可能となった大和村の基幹作物すももを今一度PRすること、子どもたちに農業に触れ、その楽しさを知ってもらおうと産業振興課が企画運営を行いました。

梅雨明け宣言の翌日とあって、晴天に恵まれたこの日、村内外から400名を超える来場者で終日大賑わい。まぶしい日差しの中、来場者は、新鮮なすももを使った冷たいスイーツなどのすもも加工品を堪能しました。

特産品販売車「大和まほろば号」で行われたすもも販売では、当初用意していた180キ口が販売開始から20分で完売。追加で入荷し、合計240キ口が完売しました。買い求めた人の中には、島外出荷用の箱に詰め替えて、島外の家族などに発送準備をする姿も多く見られました。

また、家族連れにも楽しんでもらえるよう趣向を凝らした体験コーナーも大盛況。奄美の伝統発酵飲料「ミキ」を使ったスムージー作り、加工場見学、トカラ馬やヤギとのふれあいコーナーなど。なかでもショベルカーやトラクターといった農耕機の乗車体験は憧れの働く車に乗れるとあって男の子を中心に大人気。順番待ちの列が途絶えることがありませんでした。

大和村の山の幸はすももだけではありません。昼時には大和村食生活改善グループが調理したシシ肉のカレーが無料でふるまわれ、訪れた人には「シシの臭みがまったくなくて美味しい」と好評の声が聞かれました。

メインイベントとして企画された「すももレシピコンテスト」が午後から開催され、すももを使った自慢の一品でエントリーした5名がグランプリの座を狙いました。詳しくは4ページをご覧ください。



一番人気はショベルカー



動物とのふれあいコーナーで餌やり体験



コスモスの種を入れた花の種だんご作り



人気の地場野菜販売コーナー



すもも 240 キ口、完売御礼



にぎわう会場



すももを使ったスイーツは子どもにも大好評



スムージー作り体験 隠し味はミキ！



村民による「大和村バンド」のライブも行われた



無料で振舞われたシシカレー





平成27年9月に奄美大島に再侵入したミカンコミバエ。果樹の村・大和村を揺るがす衝撃が走り、タンカンをはじめとした柑橘類、グアバ、パイナップル、なす、トマトなど多岐にわたる果物や野菜の島外出荷ができなくなりました。果実は全て収穫し廃棄処分をしなければならぬという、農家の皆さんにとっては苦しい状況でした。そして何より、毎年楽しみに待っていた島外に暮らす親戚などにタンカン等を送ることができずに残念な思いをされた方も多かったのではないのでしょうか。

同年11月、防除作業が開始。ヘリコプターによる山間部へのテックス板（誘殺板）の散布のほか、集落内の果樹にテックス板を設置する作業を定期的に行いました。その数、1万5184枚。さらに、村民の皆さまのご協力を得て、集落内の不要果実の除去や果樹の伐採作業を行うことができました。早期根絶へ向けた防除作業が功を奏し、4月、果樹の村に朗報がもたらされました。ミカンコミバエの誘殺数ゼロが続いたのを受けて、移動制限が解除されることになったのです。これにより、悲願だったすももの島外出荷が可能となりました。

続く7月14日、ミカンコミバエの3世代相当期間にわたり誘殺ゼロが続いたことで、植物防疫法に基づく緊急防除が解除。実質的な「根絶」ととなりました。旬を迎えたマンゴーやパッションフルーツなども自由に島外に持ち出すことができます。

実質的根絶に安堵 ミカンコミバエ問題を振り返る



テックス板



テックス板に針金を通す作業を行う職員



集落内の果実除去作業



廃棄される果実



廃棄処分されるボンカン



防除作業にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

すももレシピコンテスト



ホットソース「すももスコ」



すももグミ



とろりんチーズケーキ



すもものおやし



グランプリ すもも大福

すももフェスタ来場者のうち 30 名が試食を行い、一番だと思ふものに投票してグランプリを決定するというイベントです。今回は、お菓子ははじめ 5 品がエントリーされ、それぞれの自慢の味を競いました。男女問わず審査員の舌をうならせ、初代グランプリの座を獲得したのは村上恵子さん（国直・62 歳）が応募した「すもも大福」。すももジュースを練りこんだ生地であんとすももを包んだ大福は、一口ほおばると甘酸っぱいすももの風味が広がる暑い夏にぴったりのお菓子。今後、まほろば館などでの販売を見据えて商品化が計画されています。

「すもも大福」の作り方



材料（10 個分）	
白玉粉	100g
すももジュース	250ml
セミドライすもも	5 個
こしあん	お好みで適量

ジュースは炊飯器で
保温するだけ！
コンポートを干すだけで
セミドライすももに変身♪

ジュース材料	
すもも	1 kg
砂糖	500 g

● ジュースを作る ●

- ①すもも 1 kg と砂糖 500g を炊飯器に入れて 24 時間保温する。
- ②しみ出した果汁（ジュース）と実（コンポート）に分ける。

● 大福を作る ●

- ①コンポートを一晩干して、セミドライ状態にする。
- ②セミドライすももをそれぞれ 2 等分にして、一つずつあんこにくるみ、丸めておく。
- ④白玉粉とジュースをあわせ、大きなダマがなくなるまでよく混ぜる。
- ⑤ラップをかけて電子レンジで 2 分間加熱する。
- ⑥よく練る。
- ⑦片栗粉を敷いたバットに取り出し、10 等分する。
- ⑧あんを包んで出来上がり。



2. 確認する

自宅で「その時」を迎えるとは限りません。職場や通学路など出先の避難先も確認しておきましょう！



津波の危険がある場合は高台へ！

強い揺れが続く場合は津波の危険があります。警報などの情報を待たずに避難してください。海岸から離れすみやかに高台を目指してください。

日頃から海拔や避難路を確認しておきましょう。

海拔 10m、20 m、30 mの地点に標柱が立っています。

海拔 20 mの高台に行くには？

国直	県道を名瀬方面へ (サンセットパーク)
湯湾釜	村道湯湾釜線 (名瀬方面から見て住宅を通り過ぎた 左側の山道)
津名久	村道宝田線 (岩崎産業横の山道)
思勝・ 大和浜	岩崎林道 (中学校の横の山道) 村道大和浜大和線 (毛陣トンネル手前の右側の山道)
大和	村道前山線 (学校プールの奥の道)
大金久 戸円	県道を戸円方面に登る 県道を大金久方面に登る
名音	村道大和名音線 (奄美フォレストポリスへ行く道) 村道名音志戸勘線 (志戸勘トンネル手前の道)
志戸勘	村道志戸勘湯湾岳線 (志戸勘トンネル志戸勘側出口横の道)
今里	県道を宇検村方面に登る

ここは海拔
20 m
です

津波は第1波より第2波、第3波の方が高くなることもあり、警報、注意報解除までは気を緩めないようにしましょう。



3. 訓練する

防災訓練を実施します

地震発生から津波の発生を想定して村内一斉避難訓練を実施する予定です。日時がきまり次第、お知らせいたします。

訓練当日までに持ち出し袋なども準備しておけば、より実践的な訓練ができます。

大和村の自主防災組織率は100%。災害時にはお年寄りや体の不自由な方などの避難誘導などの活動が期待されます。しかし、「その時」に安全に効率的に機能できるかは、日頃から訓練にかかっているかどうか、平時から非常時の対応について地域で協議し、自主的に訓練を行っているおきましょう。

特集②

災害は忘れた頃にやってくる！
“その時”に備えよう

1. 備える

これから台風シーズンを迎えます。

いつ何時猛威を振るうかわからない自然災害について理解を深め、これを機に万全の準備をしておきましょう。



家庭でできる備えは？

風水害への備え

- ・雨どいはこまめに掃除しておく
- ・窓のひび割れ、がたつきなどを修理しておく
- ・雨戸をしめる、窓は外側から板でふさぐ
- ・断水に備え、飲料水・生活用水を確保する（湯船に水をはるなど）
- ・停電に備え、懐中電灯などの準備をする
- ・台風が最接近する前、暗くなる前に早めの避難を！

地震への備え

- ・家具は落下、転倒防止のため固定しておく
- ・安全に避難できるよう出入り口や通路には物を置かない



非常用持ち出し袋は準備していますか？

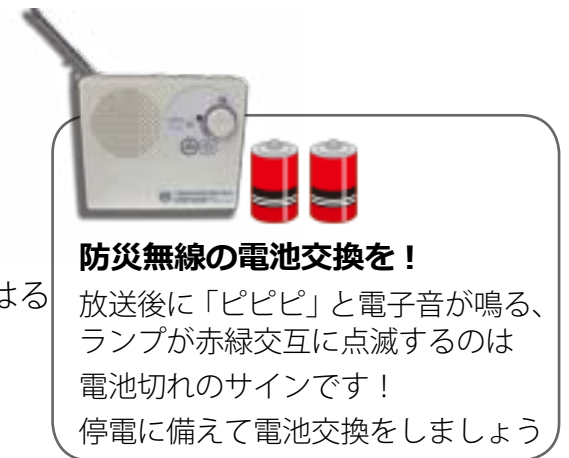
避難の際にすぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。

両手が使えるリュックサックが便利です。無理なく運べる重さになるよう心がけて。

もう入れた？これも要チェック！

- ☐靴……室内でもガラス片などが散乱する場合があります。底の厚いものが◎
- ☐ヘッドライト・懐中電灯……一人に一つあるとよい
- ☐めがね、コンタクトレンズ、補聴器、入れ歯、杖など
……なくては生活できない道具は古くなったものや予備を入れておきましょう
- ☐持病の薬……数日分用意しておきましょう。お薬手帳のコピーなどもあると◎
- ☐ラジオ……コンパクトなもの。
- ☐電池……懐中電灯などに使用するもの
- ☐携帯電話の充電機……手回しタイプなど。インターネットが使える携帯は最大の情報源に
- ☐レインコート……雨天時に屋外に避難しなければならない場合があります
- ☐水・非常食……水は500mlのペットボトルで用意するとよい
- ☐貴重品……現金、預金通帳など
- ☐生理用品など……女性は念のため入れておきましょう
- ☐乳幼児用おむつ、ミルク、ほ乳瓶、食品など
……子どもの月齢によって食べられるものが違います
- ☐老人おむつなど……必要に応じて用意しましょう

などなど各人の必要に応じて準備しておきましょう。



防災無線の電池交換を！

放送後に「ピピピ」と電子音が鳴る、ランプが赤緑交互に点滅するのは電池切れのサインです！
停電に備えて電池交換をしましょう



水力発電所見学会

新名音川発電所が6月9日に完成し、7月13日、村内小中学生を対象に九州電力によって見学会が開催されました。名音水力発電所は昭和31年に村営の発電所として運転が開始されました。老朽化の進んだ水車や発電機を交換して、最大出力が以前の約4倍となる370kw（600世帯分）の発電が可能となりました。見学会では、大和村の電気の歴史や電気の仕組みの説明を受けた後、水車や水路を見学しました。今里小の6年塩田琉人さんは「想像していたより大きな水車で驚いた」と感想を述べていました。



夏休みは図書室へGO！

中央公民館の図書室は、昨年防災センター内に移設され「防災資料室」として機能を引き継いでいます。夏休み期間中は、図書室を解放しています。冷房完備で勉強スペースもありますので、涼しく静かな図書室で夏休みの宿題や読書をしてみませんか。多くの児童生徒の利用をお待ちしています。もちろん一般の方のご利用も大歓迎です。

開館時間は、平日の朝8時～夕方5時までです。貸し出しは一人5冊まで。貸出期間は一ヶ月間。郷土図書は閲覧のみです。



湯湾岳は海だった！

5月14日、名音小学校の3～6年児童5名が、ふるさとに誇りと愛着を持ち、ふるさとを大切にする心を育てる目的で実施される景観学習の一環として湯湾岳（奄美岳）に登山しました。講師にNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表 東川隆太郎氏を迎え、奄美岳がかつて海底であったものがプレートの移動により隆起してできたこと、また山頂近くまで道路が通っているのは、人々が山の椎木を伐採して経済活動を行っていたことを示すことなどを学びました。また、湯湾岳一帯はマンガンや珍しい鉱物が眠る特異な地域であることも学習しました。（関連記事 16 ページ）



グラウンド・ゴルフ大会

7月3日（日）、奄美フォレストポリスにて第2回大和村集落対抗グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。村教育委員会の主催で、生涯にわたりスポーツを楽しむことを推進することを目的に昨年開催されています。各集落から総勢21チームが参加し、グラウンド・ゴルフ未経験者から熟練者まで競技に汗を流しました。大和村の頂点に輝いたチームは、ふうだな一番（大堀）で220打を記録。個人の部男性の優勝者は時善富さん（ふうだな一番）で40打、女性の優勝者は玉井早苗さん（思勝老人クラブA）で39打でした。多くの賞品が用意されているのも本大会の楽しみの一つです。来年も健康作りのため、あるいは賞品を狙ってどうぞご参加ください。



無病息災を願うひととき

ゴガツセック

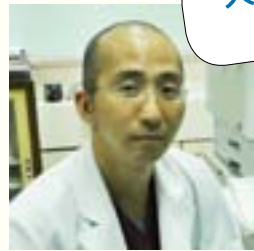
男子の健やかな成長を祈る端午の節句。島ではゴガツセックとして旧暦で執り行われ、今年は6月9日が旧暦5月5日にあたりました。全国的な風習として強い香りで邪気を祓うとされる菖蒲やヨモギを軒につるしたり、チマキや柏餅を食べるなどの習慣があります。ここでは村内に今も続くゴガツセックの風習をご紹介します。

家族の健康や無病息災を願い菖蒲の葉を束ねるのは津名久集落の中山香恵さん（88才）。この日のために庭の一角に植えている菖蒲の葉を刈り取り、近所で摘んだヨモギと一緒に葉を束ねて家の軒先や主要な柱につるし家族の健康を祈ります。この他にもお墓参りをしたり、伝統的家庭料理ヤサイ（野菜の煮物）を炊いたり朝から大忙しだと語りながらも顔には笑みがこぼれていました。自宅につるす分だけでなく、子どもや孫、親族宅のためにも葉を束ねていきます。今では市販のものでまかっていますが、昔は手作りのあくまきをお供えしていたそう。この日の夜は、葉の束をお風呂に入れて健康・長寿を願うのだと教えてくれました。



津名久集落では、菖蒲とヨモギ、あくまきが定番なようですが、ほかの集落では、ヨモギは使わない、あくまきではなくカシャ餅を食べるなど、集落ごとに風習が異なります。その中でも独自のスタイルが残る名音集落では、「ガヤマキ」を作る習慣が残っています。ガヤマキとは、もち米を小さな俵型に握り、それをガヤの葉で包み、これを3つ編み合わせたもの。これもやはり軒先などにつるします。この習慣を継承しようと名音小学校では毎年、地域のお年寄りの方々の指導のもと全校生徒でガヤマキ作りに取り組んでいます。6月11日に行われたガヤマキ作りでは、児童らによるゴガツセックのルーツを探る学習発表や制作時の注意点などの発表も行われ、この日のために児童らが熱心に取り組んできたことが伝わりました。6年生の川畑光智慧さんは、「6回目だけどガヤマキ作りはやっぱり難しい。来年もお母さんと作りたい」と話していました。一年に一度、日常生活に小休止を入れ葉っぱを束ねながら家族の健康を祈る—そんな時間の使い方があってもいいのかもしれません。いつまでも続く風習であってほしいと願います。





大和診療所だより
Vol. 7

どうくさむんがたり

医師 小川 信

破傷風について

破傷風は、過去の病気ではありません。特に奄美大島では比較的多くみられています。破傷風は、破傷風菌が産生する毒素によりけいれんをひき起こす感染症です。菌は土壌中に広く常在し、転倒などの事故や土いじりによる創傷部位から体内に侵入し毒素を産生します。極めて些細な創傷部位からでも侵入すると考えられており、侵入部位が特定されていない報告事例も多いです。症状は潜伏期間（3～21日）の後に口を開けにくい、飲み込みにくいなどから始まり、息がしにくい、全身のけいれんなどに移行し、重篤な患者では窒息死することがあります。

我が国では破傷風は1950年には報告患者数1,915人、致死率が高い（80%）感染症でした。1952年から破傷風ワクチンが導入され、さらに1968年には定期予防接種法が開始されたため、患者・死亡者数は減少しました。しかし2011年でも118人程度の患者数があり、致死率が高い（20～50%）感染症です。注意すべきことは、1975年～1981年はワクチンが副反応のため中止されたので接種されていない可能性があること、子どもの頃に予防接種を受けた人も40歳頃にはほとんど効果がなくなっていることです。ワクチン

の最終接種から10年以内に追加接種すると効果が維持できます。米国では、10年毎の追加接種が推奨されているため、1年間に18例（2009年）の患者数です。

破傷風は、ワクチン接種および創傷部位の適切な治療により、感染の可能性を低くすることができます。何か心配なことがあれば、診療所にご相談ください。皆さんの大事な身体は、自分で守りましょう。

【文献】

- 1) 国立感染症研究所ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/466-tetanus-info.html>
- 2) 外傷初期診療ガイドライン JATEC 改訂第4版

大和診療所は今年度から、システム変更（電子カルテ、院外処方）があり待ち時間などで、皆様のご迷惑おかけしていることをお詫び申し上げます。これからも、安心、安全な診療所を心がけて精進いたします。何かお気づきのことがあれば、ご指摘宜しく願います。

大和診療所の週間予定表

		月	火	水	木	金	土	日
午前	8:30-11:45	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	13:00-16:00	今里へき地 診療所 訪問診療	訪問診療	休診 (医師研修)	大和の園 回診	今里へき地 診療所 訪問診療	休診	休診
	16:00-16:45	外来	外来		外来	外来		



地域おこし協力隊 小海もも子の

ワンダー奄美

Wonder Amami

第1回



草刈の後、役場で耕運機を借りて耕してもらいました。



綿花の種をまいたら芽ができました。紡げたらいいなあ



塩豚やさいの料理教室にいきました。おいしくて感動です。



フクギの草木染めを体験し、素敵なエプロンができました。

こんにちは。大和村の地域おこし協力隊の小海もも子です。大和村に住み始めてから約3ヶ月が経ちました。ジメジメの梅雨も、大量発生羽根アリも、かんかん照りの太陽も、この厳しさがあるから豊かな自然があるのだと納得しながら、体全部で奄美らしさを満喫しています。

さて、夏がやってきて奄美の本格的な観光シーズンになりました。私は7月上旬現在、旅行者が大和村を訪れるきっかけ作りとして観光ガイドマップの作成や、来村者に分かりやすい案内方法を考えています。きれいな海や、豊かな山、素敵な文化があるので、ぜひたくさんの方が訪れて欲しいと思っています。

ところで、最近私は「畑」をしています。

せっかく土地が豊かな大和村に住むのだから、何か野菜を作りたいと思い、思勝の公民館の近くに畑を借りました。100坪くらいの畑は、3年くらい誰も使っていなかったため草ぼうぼう！近くにハブ道もあり、入るだけでもひやひや！でしたが、とうとう5月30日の炎天下に草刈りを決行。近所の方々が手伝ってくれて、とても嬉しかったです。そのあとも作業を続け、6月中旬にはやっと畑らしくなりました。

とりあえず発芽させていた大豆、黒豆、花オクラ、バジルなどを植えました。土に触ることはストレス解消や免疫力向上、認知症の予防にも効果があるとか。水をやったり、草を取ったり、毎日畑に行くことが楽しみになっています。

農作業は大変なことも多いですが、それ以上に喜びが多いです。芽が出たこと、花が咲いたことに一喜一憂し、丁寧に野菜を作られている方々の気持ちが少しだけわかった気がします。

そして、畑の維持がどれだけ大変なことなのかもわかりました。草は勢いよく生えるし、虫も元気がいいし、雨風も強いです。それでも、畑が畑であり続けるには、人が手を入れ、種をまき、見守っていかなくてはいけないのですね。「先祖が耕してきた土地」という言葉の重みを大和村にきて知ることができました。

最近、村内で野菜を買っています。役場からの帰り道でもらうこともあります。東京でスーパーに売っているシワシワの高価な野菜を買っていた時を思うと、こんな新鮮な野菜を毎日食べていただけるなんて、本当に幸せなことだなと思っています。

今後、大和村の諸先輩方には、畑についていろいろご教授願えたら嬉しいです。

Facebookにて奄美での日々の生活を紹介しています。ぜひご覧ください！
www.facebook.com/wonder.amami/



Wonder Amami ワンダー奄美

「ワンダー奄美」で検索



広報やまとがスマホで読めます！



アプリで広報誌を読む
アプリを起動し「広報紙」タブを選択すると、「広報やまと」を読むことができます。平成28年5月号から閲覧が可能です。
本村以外の登録自治体の広報誌も読むことができます。

地域を登録
インストール完了後、アプリを起動し、エリア選択で大和村を登録。本村のほか、同アプリに登録している全国約300の他市町村の広報誌もご覧いただけます。



まずはアプリをインストール
App StoreやGoogle Playから無料アプリ「i広報紙」をインストールしてください。左記QRコードからもインストールできます。

「広報やまと」のアプリ配信開始！
本村の広報誌「広報やまと」をパソコンやスマートフォン、タブレット端末などいつでもどこでも読むことができる無料アプリ「i広報紙」での電子配信を始めました。

住むまちをもっと好きになるアプリ

i 広報紙

i 広報紙がもっと便利になってリニューアルされました！
この機会にダウンロードしてみませんか？

① 役立つ行政情報を見逃さない！

ニュース
広報紙
お知らせ

② 自分に合わせた情報が届く！

イベント
子育て

③ 他の自治体の広報誌も読める！

アプリ配信数 全国 No.1

他にも便利な機能がたくさん！まずは右下のバーコードからご確認ください！

※アプリの使用は無料ですが、通信費は各回線ごとのご負担となります。
※広告が表示されますが、各自治体とは何ら関係ありません。

i 広報紙に関する問い合わせは
株式会社ホープ(092-716-1404)までご連絡下さい。

平成28年8月28日（日曜日）

開催



第25回

ひらとみ祭り

9:00 舟こぎ大会 受付開始
10:00 競技開始
17:00 ステージ
20:30 花火

大物ゲストのステージやヒーローショーもお楽しみに！

問合せ先 ひらとみ祭り実行委員会事務局（役場内） 向井
（電話 0997-57-2111）

このコーナーでは、大和村を支えた産業の姿を紹介していきます。

湯 湾岳東山腹（名音）に大和鉱山があるのをご存じでしょうか。明治中期から昭和39年までマンガンを産出した島内最大の鉱山です。戦前は製鉄のため、前後は乾電池用として採掘され、日本の工業振興に大きく寄与しました。戦前の最盛期は、30名を超える従事者があり、地元も活気に満ちた時代でした。名音沖合の本船へ伝馬船で積み出され、主に八幡製鉄所、神戸製鋼所へと輸送されました。写真の重機は、ワイヤーケーブルでマンガンを採掘場から上部の貯石場へ運ぶ機械で、今もなお山中に残されています。うつそうと茂る草木に埋もれながらも大和村の産業の歴史を今に伝えていきます。

湯湾岳は海底に放散虫や動物の殻などが体積してできたチャートと呼ばれる地層が隆起してできたものです。マンガンは、こうした地層に含まれるので、湯湾岳に鉱脈が横たわっているのです。また大和鉱山は、昭和57年に発見された新鉱物「原田石」が採れることで知られています。輝く緑が美しい原田石はたいへん稀な鉱物で、大和村と国内3カ所、そしてイタリアの一部のみでしか産出されません。大和村の地層が世界的にも特異であることがわかります。大和鉱山は、本村の産業遺産であると同時に、地球の恵み、自然遺産でもあるのです。

シリーズ

大和村 産業遺産



マンガン鉱石

第1回 名音 マンガン鉱山



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接URLを入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜100番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>